慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	故鈴木錠之助氏の略歴
Sub Title	
Author	松本, 芳夫(Matsumoto, Yoshio)
Publisher	三田史学会
Publication year	1924
Jtitle	史学 Vol.3, No.2 (1924. 8) ,p.165(326)- 166(327)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19240800-0165

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

故鈴木錠之助氏の略歴

本會々員にして慶應義塾專門部教授であつた鈴木錠之助氏は、去る四月十九日午前四時半心臟麻痺で突然逝去された。氏は明治二十二年四月十七日鈴木銀次郎氏の三男として東京府下中野町字打越に生まれ、同廿七年四月同町桃園小學校に入學し、私立早稲田中學校を經て慶應義塾大學文學部史學科に入學した。大正四年同大學において第一回中上川奬學資金を給與され、翌五年三月同大學卒業後直ちに同塾商工學校において教鞭をとり、ついで同塾大學部豫科並びに專門部において歴史を講じ、今日に至つた。氏は主として西洋古代史を專攻し、殊にギリシヤ史、ローマ史、及びキリスト教史に造詣深く、常にその研究を怠らなかつた。いま生前に發表された主なる論文をあぐれば

アクトン卿（史學第一卷第二號）大正十一年二月

希臘羅馬思想の自由に就いて（三田文學第十三卷第七號）　大正十一年七月

新約時代に於ける猶太人の社會生活（史學第一卷第四號）大正十一年八月

宗教と其來世觀（三田評論第三〇二、三〇三號）　大正十一年九、十月

ウヰリアム・ロバートソン・スミス（史學第二卷第一號）　大正十一年十一月

新しい歴史（商工會々報第二四號）　大正十二年二月

古代社會に於ける信仰、思想、及び其制度の變遷（三田評論第三〇九號）　大正十二年四月

「佛蘭西革命史論」（批評）（三田文學第十四卷第

五號）　大正十二年五月

宗教と社會の進步（三田評論第三二二號）　大正十三年六月

等で、その中最後の論文は、氏が執筆後編輯者に送附したまゝその發表をみることのできなかつた絶筆である。なほ氏の最大の學的事業は、フユステル・ド・クーランジユの著『希臘羅馬史論』（古代市邦論）の邦譯である。これは慶應義塾大學史學科諸教授の手によつて目下刊行中の泰西名著歷史叢書の第一卷として大正十二年六月發刊されたのであつて、この世界的名著を流暢精緻なる邦語にうつし得たことは、わが學界に對する大貢獻であつた。

氏は熱心なるキリスト信者であつて、內村鑑三氏の門下生としてその信仰はあくまで純正、その人格は高潔であつた。氏の溫良と親切とは氏に接するものをしてかぎりなき快感を覺えしめた。氏はまた中野町會議員として地方自治體のために盡瘁し、直接間接町政のためにつくしたことは尠少でなかつた。氏は平素あまり壯健でなかつたが、しかし近來健康を恢復し、自他ともに大いにその活躍を期待したるに、突然その長逝に會したのは誠に痛惜にたえない。謹んでこゝに哀悼の意を表する。

松本芳夫